

【 諸橋轍次博士記念漢詩大会入選基準 】

本大会実行委員会では、全投稿者に入選して頂くことを基本理念と考えています。是非、下記の入選基準を熟読され、全投稿者が笑顔で『粵風詩筒』をお読み頂ければ幸いです。

尚、本大会では今を生きる日本人が賦した詩を、今を生きる中国人の視点を加えて審査を行います。初めての方でもかまいません、多くのご投稿をお待ちいたしております。

- 一、 七言絶句のみとする。
- 二、 七言絶句の規則は、次に掲げる諸橋轍次著、大修館書店発行『大漢和辞典』（巻四、五〇〇～五〇一頁）の「平仄式」による。

「平仄式」

詩の平仄に関する法式。正式と変式の二つがあり、正式は一定の平仄を用いて声調を整えるもので、近体詩の絶句・律に用い、変式は一定の形式に抛らぬもので、古体詩に用いる。又、平仄の排列上の法式に平起式と仄起式の二つがあり、第一句の二字が平に起こるものを平起式、仄に起こるものを仄起式という。五絶・五律は仄起式を正格とし、平起式を偏格とし、七絶・七律はこれに反する。平字は○、仄字は●、平仄共通は◎、韻は◎を用いる。

〔詩法小論、絶句平仄〕

学詩、先要知平仄、不然、句雖工功、不入規式。

七絶（平起受仄者）

●○●●●○◎
●●●○●●◎
●●●○○●●
●○●●●○◎

七絶（仄起受平者）

●●●○●●◎
●○●●●○◎
●○●●○○●
●●●○●●◎

平対仄、仄対平、切要分明、一三五不論、詩句中第一字、第三字、第五字、或当用仄而用平、亦可、不必定拘、二四六分明、詩句中第二字、第六字、当用平者、一定用平、当用仄者、一定用仄、不可移易、如五言律、止論詩句中第二字、第四字。

（大漢和辞典より抜粋。旧字、送りがな、韻の記号は、必要と思われるものは、初学者の便に実行委員会が変換し付け加えた。）

- 三、 七言絶句の規則で、現在通行の許容範囲は実行委員会の判断による。
- 四、 初学者及び学生部に関しては、実行委員会で修正を加えることがある。